

## 第1号報告

### 令和2年度 事業報告書

#### 第1 はじめに

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が続いた令和2年度は、核兵器禁止条約（TPNW）の発効という核兵器廃絶にとって大きな節目の年となった。核兵器禁止条約は、2021年1月22日に発効し、2022年1月にオーストリアのウィーンで第1回の締約国会議が予定されている。また、2020年4～5月に開催が予定されていた核不拡散条約（NPT）再検討会議は、本年8月まで延期された。

また、核兵器禁止条約の条約発効前には、オバマ政権の「核なき世界」の理念を継承する民主党のジョー・バイデン氏が、共和党のドナルド・トランプ氏に代わり第46代アメリカ大統領に就任（1月20日）し、2月には米国とロシアは新戦略兵器削減条約（新START）の5年間延長に合意した。

2020年1月に日本国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてから、国内での感染拡大を受けて、2月29日から追悼平和祈念館を臨時休館し、併せて平和案内人の常駐ガイドや継承部会員による被爆体験講話を中止することになった。

緊急事態宣言解除の6月からは、徹底した感染対策を実施することで、追悼平和祈念館を開館し、平和案内人の碑めぐりガイドを、7月からは長崎原爆資料館の常駐ガイドを再開したが、継承部会員による被爆体験講話は8月から再開した。

被爆75周年の2020年（令和2年）度は、様々な記念事業の開催を予定していたが、長崎市でも感染拡大が続くなか、当協会の各事業も縮小、延期又は中止した。

その中でも被爆75周年事業として、女優たちの原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」特別編は、8月に観客を制限して開催することができたが、記念講演会、原爆写真展は、翌年度に持ち越すことになった。

長崎市からの受託事業である「青少年のハワイ派遣事業」「青少年ピースボランティア事業」「青少年ピースフォーラム事業」「国際青年平和フォーラム事業」並びに当協会が実施している「アジアの若者による平和ネットワークの構築プログラム」等は、オンラインを活用して開催した。

一方、当協会のホームページに被爆遺構巡りなどの動画を掲載し、被爆者証言ビデオの制作や長崎の原爆遺跡・慰霊碑ウォークマップを発行するなど平和学習教材の充実に努めるとともに、Instagram、YouTube、Facebook、LINE等のSNSを活用した情報発信に積極的に取り組んだ。

さらに、本年3月29日には、国際基督教大学との連携協定書等を締結し、平和に関する人材育成、教育、文化等の分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与していくことになった。

#### 第2 令和2年度の事業

当協会の事業は、公益目的事業である「1 平和推進事業」「2 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業」「3 収益事業（図書等販売）」の3事業であり、令和2年度の各事業の実施状況は、次のとおりである。

## 1 平和推進事業

「核兵器の廃絶」と「世界恒久平和の実現」に向けて、平和への認識をさらに深めてもらうために、財政基盤の確立と円滑な事業運営を図りつつ、次の事業を実施した。

### (1) 発刊事業

- ① 会報「へいわ」の発行
  - ・年4回発行（令和3年3月末現在169号、1回あたり2,300部発行）
- ② ブックレット「平和のあゆみ」の発行
  - ・年1回、2,000部発行
- ③ 広報活動：特に若者に対するの情報発信を強化した
  - ・情報BOX（毎月150部発行）：協会役員、各部会員等へ郵送。協会HPに掲載
  - ・会員入会案内リーフレット：追悼平和祈念館及びイベント開催時に配布
  - ・協会ホームページ：被爆体験講話・平和案内人等申込方法案内等の情報
  - ・SNS：LINE：協会行事等を情報発信（月4回程度投稿）  
Instagram：青少年ピースボランティアの連続企画等発信（182投稿）  
YouTube：平和案内人らによる碑めぐり動画等発信（17投稿）  
Facebook：追悼祈念館の情報を発信（32投稿）

### (2) 平和意識の啓発事業

- ① 平和学習：被爆体験講話者（継承部会員）派遣

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月から7月まで、被爆体験講話の実施を中止した。

8月からは、講話者と聴講者の間に2メートル以上の間隔を空けた上でアクリル板を設置し、双方ともにマスク又はマウスシールドを着用し、座席の消毒等、部屋の換気など徹底した感染対策に取り組みながら活動を再開した。

また、修学旅行等の団体に対して、出席者の検温等の健康管理をお願いするとともに、講話者に対しても事前に検温等の健康確認を行っている。

修学旅行を中止した団体等に対し、オンラインでの講話を実施するなど、新しい取り組みも始めた。（オンライン件数：17件）

また、被爆75周年事業として、継承部会員による被爆体験講話が急遽実施できなくなった場合の代替案として活用する被爆者証言ビデオを制作した。

#### <被爆体験講話の実績（学校・団体）>

区分	実施件数	受講人数	摘要
平成30年度	1,191件	151,591人	
令和元年度	1,168件	162,688人	
令和2年度	495件	42,355人	コロナ禍

<令和2年度の内訳>

区 分	実施件数	うち市内	オンライン	受講人数
小学校	301 件	9 件	3 件	20,163 人
中学校	100 件	2 件	5 件	9,435 人
高等学校	80 件	1 件	6 件	11,678 人
一 般	14 件	6 件	3 件	1,079 人
計	495 件	18 件	17 件	42,355 人

※「うち市内」は、長崎市内の小中学校・高校・一般の講話件数

ア 県外派遣（オンラインで実施）

実施先：千葉県浦安市（オンラインで実施）

イ 被爆体験講話者派遣事業（長崎県主催事業）

県内：大村市、西海市

県外大学：九州大学（オンラインで実施）

ウ 被爆者証言ビデオ

継承部会員による被爆体験講話が急遽できなくなった場合の代替案として活用する被爆者証言ビデオを作成した。

・被爆者4名撮影：下平作江氏、深堀譲治氏、松尾幸子氏、山脇佳朗氏）

※「8月9日の記憶」DVD・BD各1本／各20分

② 原爆被災写真パネル・DVD（ビデオ）の貸出

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大で、修学旅行を実施できなかった学校などから利用申請が多く寄せられ、DVD貸出は例年の約1.5倍の実績数となった。

<令和2年度の貸出状況>

区 分	写真パネル	DVD（ビデオ）	
	件数	件数	本数
小 学 校	5	31	82
中 学 校	1	39	84
高等学校	2	15	30
一 般	8	20	37
計	16	105	233

③ 講演会等の開催

令和2年度は被爆75周年事業として、女優たちの原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」特別編を、コロナ禍の中、徹底した感染対策を行い開催した。

女優4人（渡辺美佐子、高田敏江、長内美那子、池田舞）が出演した。

長崎の被爆者による手記等を中心とした脚本に再構成されたうえに、オーディションで選ばれた長崎の子ども達（小学生）7人も参加した。

また、被爆75周年事業の「長崎原爆写真展」及び「設立記念事業講演会」は、新型コロナの感染拡大を受け、次年度に繰り越しとなった。

- ・演 題：女優たちの原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」特別編
- ・開催日：令和2年8月30日(日)13:00~14:15
- ・会 場：長崎原爆資料館ホール（サテライト会場：平和学習室）
- ・入場者：約200人（応募多数で抽選）

④ 国連軍縮週間行事「市民のつどい」

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、青少年ピースボランティアによるInstagram企画の展示、県外原爆展の解説動画の上映など、規模縮小で開催した。（同時開催の「市民大行進」も参加者約500人）

- ・開催日：令和2年10月24日(土)10:00~13:00
- ・場 所：原爆資料館前階段下広場
- ・来場者：約300人

⑤ 「県外原爆展」（長崎市からの受託事業）

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、継承部会員等の現地への派遣は中止し、写真パネルのみの展示など規模を縮小して実施した。

大学原爆展では、青少年ピースボランティアの九州大学生が、同大学に在学する留学生を対象に英語で被爆の実相を伝える動画をオンラインで配信した。

原爆資料館内で、県外原爆展を紹介する「ふりかえる県外原爆展」を開催した。

写真資料調査部会員による原爆展写真パネルの解説動画の作成（6本）し、併せて同動画をYouTubeでの配信を行った。（再生回数10万回視聴：3月末時点）

<令和2年度県外・大学原爆展の開催内容>

富山県 高岡市	開催時期	7月10日~7月12日、8月3日~8月7日（8日間）		
	展示会場	①ウイング・ウイング高岡 ②高岡市役所	原爆展見学	①171人 ②約300人
九州大学	「被爆体験講演会」オンライン開催		聴講者	208人 (24か国)

(3) 調査研究

① 長崎県内の平和施設を案内：総務課長

- ・派遣期間：令和2年11月30日（1日）
- ・調査施設：川棚町片島公園（魚雷発射試験場跡）、浦頭引揚記念資料館等
- ・研修事項：国際基督教大学の学生を各施設に案内して協力した。

(4) 育成事業

① 部会活動

新型コロナウイルスの感染拡大で様々な活動に制約がある中、三密を避け対策を講じながら協会会員で組織する4部会の活動を行った。

ア 継承部会(43人)：計7班の調査・協議等に係る自主活動

- 被爆体験の深化講座の開催、海外とのオンラインによる講話の実施、長崎外国語大学、長崎国際シンポジウムでの講話
- イ 写真資料調査部会(9人)：被爆写真や資料の収集・分類整理  
 原爆写真展「パノラマで見る被爆後の長崎」(7月～8月)  
 ※75周年記念事業を延期し、内容・規模を縮小しての実施  
 現場での解説を中止し、オンラインの原爆写真展を開催。  
 長崎市から国立公文書館資料検証業務を受託
- ウ 国際交流部会(24人)：例会の実施(5回)
- エ 音楽部会(17人)：平和関連音楽会の企画・実施、平和音楽祭の開催協力

② アジア青年平和交流事業

令和2年度は、3事業を認定し、若者の取り組みを支援した。

本年3月の成果報告会は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、団体ごとに対策を講じ開催した。

<発表・審査会> 令和2年9月13日〔追悼平和祈念館交流ラウンジ〕

<成果報告会> 令和3年3月6日〔追悼平和祈念館交流ラウンジ〕

[事業内容]

ア 長崎純心大学 Green Pieces

長崎在住の外国人に戦争・原爆・平和に関するインタビューを行い、その内容をまとめた冊子を発行した。

イ 長崎大学 Peace Caravan 隊

オンラインでの国際交流イベントへの参加の他、オンライン勉強会の開催や、「原爆とは？」を題材にした動画の制作に取り組んだ。

ウ 活水高等学校 平和学習部

絵本「ふりそでの少女たち」の物語や、像を製作した中学生らの話をまとめ、英語・韓国語・中国語を併記したパンフレット5,000冊を作成した他、振袖の折り紙の折り方を解説した動画を制作した。

③ 平和事業支援（共催・後援事業）

<共催事業>

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所	共催金
1	第35回長崎平和音楽祭	長崎平和音楽祭 実行委員会	7/25	原爆資料館 ホール	100,000 円
2	国際平和シンポジウム 2020「核兵器廃絶への道」	朝日新聞社、長崎市、 長崎平和推進協会	8/1	原爆資料館 ホール	

<名義後援事業>

No.	事業名	主催団体	開催日	開催場所	協力金
1	第 67 回 長崎原爆忌平和祈念俳句 大会	長崎原爆忌平和祈念 俳句大会実行委員会	7/25	原爆資料館 (掲示板)	3,520 円
2	第 58 回 原爆忌文芸大会	特定非営利活動法人 長崎国際文化協会	8/3 ~10	ブリックホ ール	10,000 円
3	被爆 75 周年祈念 「キッズゲルニカ in ながさき」 国際子ども平和壁画展	長崎親善人形の会 (瓊子の会)	8/6 ~31	原爆落下中 心地公園内 下の川	
4	ナガサキ 映画と朗読プロジェクト	ナガサキ映画と朗読 プロジェクト実行委 員会	11/14 ~15	原爆資料館 ホール	
5	第 42 回 平和の使者クリスマスカ ードコンテスト	長崎 YMCA 長崎ワイズメンズク ラブ	11/23 ~ 12/25	長崎 YMCA 他	
6	平和と祈りのイルミネー ション点灯式	浦上平和プロジェク ト	12/19	浦上天主堂 下天主公園	
7	被爆 75 周年記念 長崎平和祈念講演会	(一社) 茶道裏千家淡 交会長崎支部	3/14	平和会館 ホール	

④ 秋月グラント（助成制度）

No.	事業名	主催団体	開催日	助成金
1	動画で平和学習プログラム -原爆資料館および被爆遺構紹介 等の作成	ピースバトン・ ナガサキ	4/1~3/31	180,000 円
2	川棚町海軍工廠跡及び矢上地区の 戦争遺跡の調査を行い、平和を考 える取り組み	矢上小学校	11/1~1/31	109,320 円
3	長崎おり鶴再生画用紙子ども絵展	長崎おり鶴再生画 用紙子ども絵展実 行委員会	10/24~30	100,000 円

⑤ 平和案内人育成・派遣事業

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、常駐、碑めぐり、予約ガイドを5月まで中止したが、6月からは碑めぐり、7月からは常駐を再開した。

その後も、コロナ禍の中、感染状況を見ながら、一部中止の対応を行った。

ガイドの際には、参加人数の制限や、マスク・フェイスシールド及びガイドレシーバーを使用しての案内など、徹底した感染防止対策を行った。

また、長崎に来ることができない修学旅行生などに向けて、長崎被爆遺構めぐり動画を7本作成し、併せてYouTube配信を行った。

《第7期平和案内人育成講座》※令和元年度延期分

令和元年11月23日に第1回講座を開講した第7期生の育成講座は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2月末より実施を延期した。6月末に再開し、31人が修了した。

実施期間：令和2年6月27日～7月11日（延期分3回の実施）

第1期生から第7期生まで、現在、平和案内人165人が登録し、活動している。

《活動内容》

- ・長崎原爆資料館の常駐ガイド（無料）

長崎原爆資料館や追悼平和祈念館の館内を無料で案内

※2月29日～6月30日、12月26日～2月21日まで中止

- ・長崎原爆資料館の予約ガイド（有料：1,500円）

事前に申し込みがあった場合、館内を有料で案内

※4月1日～7月31日まで中止

- ・碑めぐりガイド（有料：1,500円）

事前に申し込みがあった場合、平和公園や周辺の被爆建造物等、希望に応じた箇所を有料で案内

※4月1日～5月31日まで中止

《研修活動》

令和2年度は、感染対策を講じながら、下記の内容で実施した。

6月20日 感染予防ガイドラインについて

9月26日 「松原の救護列車を伝える会」による朗読劇

＜平和案内人活動実績＞

区 分	利 用 者 数			計	活動人数 (延)
	原爆資料館 常駐ガイド	予約ガイド			
		資料館内	碑めぐり		
平成30年度	10,629人	1,661人	8,965人	21,255人	2,581人
令和元年度	8,999人	2,234人	8,704人	19,937人	2,504人
令和2年度	2,345人	514人	2,704人	5,563人	1,136人

⑥ 語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進事業（長崎市からの受託事業）

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月～5月、12月下旬から翌2月までの定期講話を中止した。

また、話し方研修についても一部中止した。

ア 登録者数及び講話者数（令和3年3月31日現在）

登録者109人、うち講話者延47人（実人数44人）

イ 講話実施回数

区 分	市内	市外	県外	合計
令和元年度	60件	15件	89件	164件
令和2年度	68件	6件	36件	110件

ウ 主な事業内容

- ・交流会の開催 令和2年9月19日（土）、20日（日）
- ・各種研修会の開催（原爆や核についての講座、話し方研修、パソコン研修等）
- ・動画作成（被爆者2名分）
- ・審査会の開催 5件

⑦ 青少年ピースボランティア育成事業（長崎市からの受託事業）

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、主にオンラインを活用して実施した。特に令和2年度から、様々な視点で平和を発信するため、英語チームや朗読・紙芝居チームなどを結成し、グループごとの活動を開始している。

ア 対 象：15歳（中学生除く）以上30歳未満の青少年

イ 登録者：141人（令和3年3月31日現在）

（内訳：高校生69人、大学生41人、社会人13人、その他18人）

ウ 主な事業内容

- ・平和学習（月1回程度）：被爆の実相や平和に関する諸問題の学習
- ・青少年ピースフォーラム（オンライン）への参加及びその準備
- ・平和祈念式典や市民大行進等平和関連行事でのボランティア活動
- ・自主企画事業の実施。
- ・研修（新型コロナウイルスの感染拡大を受け、現地での沖縄研修を取りやめオンラインで実施）

広島研修 事前学習会 令和3年1月9日（土）

第1部 令和3年2月6日（土）

第2部 令和3年2月13日（土）

第3部 令和3年3月21日（日）

沖縄研修 ひめゆり平和祈念資料館館長講義 令和3年3月8日（月）



⑧ 青少年ピースフォーラム（長崎市からの受託事業）

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、全国からの参加者が、一堂に会して開催することができなかつたため、オンラインで開催した。

また、令和2年度は、フォーラムの紹介動画を新たに作成した。

ア オンライン青少年ピースフォーラム

・日 時：令和2年11月28日（土）13時30分～17時00分

・主な内容：被爆体験講話

青少年ピースボランティアによる被爆の実相説明

意見交換

・参加者等：7団体 29人 ※長崎市（ピースボランティア）含む

イ 紹介動画作成・公開

青少年ピースボランティアによる、ピースフォーラムの概要紹介や被爆遺構の碑めぐりの様子など、参加を検討している自治体へのPRとなる動画を制作し、YouTubeに公開した。（動画5本）

⑨ 青少年平和交流（長崎市からの受託事業）

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による渡航制限のためハワイ派遣を中止し、高校生4人が参加しての県外講師による学習会、米国本土やハワイとの交流等を全てオンラインにより実施した。

ア 事前学習

第1回 令和2年8月12日（水）

長崎原爆に関する学習（長崎原爆資料館見学、被爆体験講話）

第2回 令和2年8月13日（木）

英語研修（紙芝居朗読練習、オンライン交流会のためのプレゼン練習）

第3回 令和2年8月14日（金）（オンライン）

ハワイに関する講義（「米国ハワイ日系社会と第二次世界大戦」の聴講）

第4回 令和2年8月17日（月）

長崎原爆に関する講義（「世界の核兵器の現状について」の聴講）

被爆遺構フィールドワーク

イ 米国本土との交流（オンライン）

令和2年9月20日（日）

被爆者講話と質疑応答、高校生による紙芝居朗読、スーザン・サザード氏と日米高校生との意見交換

ウ ハワイとの交流（オンライン）

令和2年9月20日（日）

パールハーバー・バーチャルツアー、高校生による紙芝居朗読、ハワイ大学生との意見交換

令和2年10月15日（木）

ハワイ大学のオンラインによるセミナーにおいて、高校生による紙芝居朗読

エ 報告会

令和2年3月26日（金）

長崎原爆資料館及び協会の職員に対し、事業報告を行った。

⑩ 国際青年平和フォーラム（長崎市からの受託事業）

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、対面での交流を中止し、県外や海外の若者とオンラインで実施した。

また、基調講演など開催の様子はオンラインにて一般にも公開した。

なお、実施にあたっては、長崎大学核兵器廃絶研究センター 広瀬副センター長や、国際基督教大学サービスラーニングセンター 西村センター長に、意見交換に際してのアドバイスや講評などの協力をいただいた。

・開催日：令和3年2月21日（日）事前学習

令和3年2月28日（日）フォーラム当日

・場所：追悼平和祈念館 交流ラウンジ ほか

・参加者：30人

・事前学習：核兵器の現状や核兵器禁止条約について講座等

講師 長崎大学核兵器廃絶研究センター 広瀬 訓 副センター長

・当日内容：基調講演 講演者：キャサリン・サリバン 博士

平和活動の取り組み発表

意見交換

・市長提言：令和3年3月17日（水）長崎市長に「提言書」を提出

**2 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業**

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、平成15年7月の開館以来、国（厚生労働省）から当協会が施設の管理及び事業運営を受託している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、祈念館開館以来初めて、令和2年2月29日から5月31日までを臨時休館とした。

6月1日からは、施設の各入口にサーマルカメラ（検温）・消毒液の設置、館内一方通行、地下2階の原爆資料館との連絡通路閉鎖、館内配布物（チラシ等）の撤去（リーフレットのみ配布）、追悼空間の椅子の利用禁止、交流ラウンジの距離をとった椅子の配置、総合案内の亚克力板設置などの徹底した感染拡大防止対策を講じた上で、再開館した。

祈念館の各事業は、新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、事業の円滑な遂行に努めた。

(1) 追悼平和祈念館入館者数の推移

年 度	総入館者数	対前年度増▲減	摘 要
平成 29 年度	134,010 人	1,941 人増 (1.5%)	
平成 30 年度	139,105 人	5,095 人増 (3.8%)	
令和元年度	147,467 人	8,362 人増 (6.0%)	2/29～3/31 臨時休館
令和 2 年度	57,917 人	89,550 人減 (▲60.7%)	4/1～5/31 臨時休館

(2) 追悼平和祈念館の主な事業（令和 2 年度）

- ① 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開及び死没者名簿の保管
  - ・令和 2 年度：232 人
- ② 被爆体験記等の収集・整理・公開
  - ・令和 2 年度：48 人
- ③ 被爆体験記の執筆補助
  - ・令和 2 年度：6 人
- ④ 企画展の開催（収集した被爆体験記等の展示・公開）
  - ・第 10 回被爆 75 周年企画展「残したいあの日の記憶-執筆補助体験記より-」  
令和 2 年度は、令和 2 年 8 月 9 日～令和 2 年 12 月 9 日（コロナウイルス感染拡大防止のため、8 月 9 日より 5 ヶ月間、毎月 9 日に 1 編ずつホームページに掲載。）
- ⑤ 被爆証言映像等の制作
  - ・令和 2 年度：10 人（うち海外 4 人）
- ⑥ 被爆体験記等の多言語化
  - ・英語・中国語・韓国語等への翻訳、インターネットでの公開
- ⑦ インターネット会議システムによる平和学習・交流
  - ・ピースネット：令和 2 年度 38 回実施
- ⑧ 修学講習の実施（追悼平和祈念館内における被爆体験講話）
- ⑨ 海外原爆展の開催
  - 令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、被爆者の渡航は中止したが、パネル写真等の展示を実施した。
    - ・オランダ王国ライデン市で開催  
日本博物館シーボルトハウス：9 月 25 日～2 月 14 日（途中休館有り）  
3,281 人の来場を得ることができた。
- ⑩ 外国語講座の開催（平和ボランティア育成外国語講座：英語・中国語・韓国語）
  - ・令和 2 年度：英語 8 人、韓国・朝鮮語 10 人、中国語 6 人が修了

- ⑪ 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供、被爆者健康講話の開催
  - ・令和2年度の被爆者健康講話：0回（※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止）
- ⑫ 国際協力・交流プログラムの実施（アジアの若者による平和ネットワーク構築）
  - ・令和2年度：新型コロナウイルス感染拡大防止のため、招聘を中止し、前年度参加者による「フィードバックセミナー」をオンラインで実施。
- ⑬ 被爆体験記の朗読
  - ・「被爆体験記を語り継ぐ永遠（とわ）の会」の派遣、朗読会の開催
  - ・令和2年度：常駐朗読52回、定期朗読会1回（オンライン）、派遣朗読21回
  - ※アクリル板を設置しての常駐朗読や、オンライン定期朗読会を開催。
- ⑭ 家族・交流証言者等派遣
  - ・家族・交流証言者および永遠の会の長崎市外への派遣 56回
  - ※新型コロナウイルスの感染拡大による渡航制限のため、海外派遣は中止
- ⑮ 平和関連情報の収集・整理・提供、平和へのメッセージ収集

### 3 収益事業（図書等販売）

令和2年度は、3月に15年ぶりに「増補改訂版 長崎原爆遺跡・慰霊碑ウォークマップ」を発行した。QRコードを掲載し、Googleマップで慰霊碑等の場所を分かりやすく紹介した（抗菌処理をしたブックカバー、しおり付）。今回から、原爆資料館の指定管理業者以外にも長崎市内書店での委託販売契約を開始し、販路拡大に努めた。

また12年ぶりに長崎原爆資料館 資料館見学・被爆地めぐり「平和学習」の手引書の改定版の作成に取り組んだ。

引き続き協会ホームページでの通信販売に力を入れている。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、活動自粛により売り上げが減少したため、「持続化給付金」の申請を行い給付された。（給付額200万円）

### 4 法人の管理運営に係る費用（法人会計）

社会保険労務士、税理士等の専門家から助言を受けて、法人運営を的確に運営するとともに、法人の理事会、評議員会、各種委員会等を開催した。

また、著作権研修、職員・管理職研修及びクレーム研修などを実施することで、協会職員のスキル（事務処理能力）の向上に努めた。

---

（附属明細書）

令和2年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。